

---

# 祝 辞

---



## 創立50周年を祝して

兵庫県知事

齋藤元彦

公益財団法人兵庫県予防医学協会の創立50周年を心からお喜びします。

昭和46年に予防医学の進展のため創立されてから半世紀。長きにわたり、県民の疾病予防と健康増進のため、各種の健診・検査事業をはじめ、機関誌やセミナー等による保健知識の普及など、幅広い活動に取り組んでこられました。日頃のご尽力に敬意を表します。

特に、このたびのコロナ禍では、感染への懸念による健診等の受診控えや、外出自粛による運動量の低下、食生活の変化など、様々な健康上のリスクが懸念されています。

このような中、貴協会では、感染防止対策の徹底に加え、特定健診とがん健診を同時に受診できる「セット健診」など、誰もが安心して受診できる環境づくりを進めてこられました。改めて、深く感謝します。

いま私たちは、世界に類を見ない超高齢社会を迎えています。兵庫県の高齢化率は、2025年頃には30%を超える見込みです。人生100年時代を見据え、県民一人ひとりの健康寿命を延ばしていく

ことが大切です。誰もが住み慣れた地域で、適切な医療や介護を受けながら、生き生きと暮らす。そんな長寿の喜びが広がる兵庫をつくっていかねなければなりません。

県では、「人に温かい県政」を基本姿勢に、誰も取り残されることのない社会をめざして取り組んでいます。令和4年3月に策定した「兵庫県健康づくり推進プラン（第3次）」では、特定健診・がん検診の受診促進をはじめ、フレイル対策など高齢者の健康づくり、ライフステージに応じた歯と口腔の健康づくり、認知症の予防・早期発見の推進などを掲げました。行政だけでなく、県民や事業者などが連携・協力しながら、社会全体で健康づくりを支えていく必要があります。

それだけに、これからも貴協会の活動には大きな期待が寄せられています。ともにコロナを乗り越え、誰もが安心して暮らせる健康長寿社会をつくりあげていきましょう。

最後に、公益財団法人兵庫県予防医学協会のますますのご発展と関係の皆様のご健勝を心からお祈りします。



## 祝 辞

神戸市長

久 元 喜 造

公益財団法人兵庫県予防医学協会が創立50周年を迎えられましたことに、心からお祝いを申し上げます。

昭和46年の創立より半世紀にわたり、予防医学の重要性を啓発し、地域保健、産業保健、学校保健の分野で健康診断事業などを通して神戸市民の健康保持増進に取り組まれていることに、心から敬意を表します。

特にがん検診においては、本市および神戸市医師会と連携し、全国に先駆けて郵送方式による大腸がん検診を開始し、子宮頸がん検診ではより精度の高い検査法（液状処理細胞診）をいち早く取り入れてられました。また、特定健診とがん検診が同一日に受診できるセット健診を年々拡大させるなど、受診率の向上に取り組んでいただいています。さらには、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により休止となった市民集団健診の再開後は、感染対策を講じながら受診会場を増やすなど、受診者の利便性を第一に考えた、健康診断を受けやすい体制づくりにご尽力いただいています。厚く感謝を申し上げます。

本市では、誰もが健康になれるまち「健康創造都市KOBE」をめざし、健康寿命の延伸、健康格差の縮小、個人の健康づくり活動・企業の健康経営を通じた市内経済の活性化の取り組みを進めています。

また、本市では令和2年度に医療、介護、健診などのデータを個人単位でまとめて匿名化したヘルスケアデータ連携システムを構築し、大学等と連携して将来の要介護リスクを予測する研究に取り組むなど科学的根拠に基づく健康づくり、疾病予防に取り組んでいます。

市民に対し予防医学の大切さを訴えていく上でも、データを示しながら気づきを促していくことが重要です。貴協会とともに取り組んでいるがん検診においても、検診の必要性をわかりやすく市民に周知して受診を促すとともに、受診しやすい環境づくりを進め、引き続き受診率の向上に努めてまいります。

コロナ禍を経験したことで、我々の命と健康に対する価値観は大きく変わりつつあります。今後はこれまで以上に健康を大切にすると社会になると思われれます。そうした中、貴協会の役割は益々重要になると考えています。

誰もが健康になれるまちを実現するため、公益財団法人兵庫県予防医学協会の50年にわたる経験を生かした益々のご活躍を期待するとともに、今後一層のご発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。



## 創立50周年 お祝いの言葉

兵庫県医師会

会長 空地 顕 一

この度、公益財団法人兵庫県予防医学協会が創立50周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。ひとえに関係者の皆様のご尽力の賜物と、心よりお慶びを申し上げます。

兵庫県予防医学協会は、これまで半世紀にわたって人間ドックや健康診断、各種がん検診など県民の健康チェックはもちろんのこと、食品衛生検査や職場における作業環境測定など、県民の健康や保健衛生、環境衛生全般に関わる検査を実施し、県民の健康を守ってこられました。また、疾病予防の重要性を啓発し、健康相談を希望する方には適切なアドバイスを行うなど、県民の健康づくりの拠点として多大な貢献をしてこられました。

この半世紀の間に、日本国民の平均寿命は、女性が74.7歳から87.7歳に、男性は69.3歳から81.6歳に伸び、男女ともに世界でトップクラスの長寿国となりました。これには、医学・医療の進歩や、経済成長に伴って国民の栄養状態や衛生環境が改善したこともあります。健康診断などを通じて自身の健康状態を把握できるようになり、自

ら生活習慣を改善したり、がんの早期発見、早期治療に結びつけるなど、健康診断やがん検診などの結果を自身の健康維持に活かしてきたことが寿命の延伸につながっていることも明白で、そういう意味でこれまでの兵庫県予防医学協会の貢献は大変大きいと思います。

一方、2020年から世界的パンデミックを引き起こしている新型コロナウイルス感染症は、健康診断などの中止や、受診控えをもたらしました。その結果、2020年の統計によると、がんと診断された方が前年より9.2%減少し、今後、進行したがん患者が増加する可能性があります。また、その他の疾病に関しても、診断が遅れることで病期が進む恐れがあり、これからの各種の健康診断、そして兵庫県予防医学協会の役割はますます重要であると思います。

兵庫県予防医学協会が、次の100周年に向けて、これまで取り組んで来られた健康福祉事業をさらに発展させ、県民の健康や命を守っていただきますことをお願いいたしまして、お祝いの言葉といたします。



## 創立50周年記念誌発刊に寄せて

神戸市医師会

会長 堀 本 仁 士

兵庫県予防医学協会設立50周年記念誌の発刊にあたり、神戸市医師会を代表し、心よりお慶びを申し上げます。

貴協会は、予防医学事業増進のため、神戸市衛生局と神戸市医師会の協議により、1971年に設立されました。以来、事業内容も時代の要請に応じて多岐に拡大しながら、50年の長きにわたり、県民の健康増進、予防医学の発展・普及に尽力してこられました。

設立に関わった方々のご英断と、その後を引き継ぎ、弛まぬ努力で現在の隆盛を築かれた歴代会長をはじめ役職員、並びに関係各位の熱意と精進に対し、深甚なる敬意を表する次第です。

さて、超高齢社会である我が国では、「人生100年時代」とも言われ平均寿命が延びるなか、いかに長く健康を維持し、自立した生活を送るかということが、生活者一人一人の大きな課題となっています。健康寿命の延伸には従来のような「治す医療」ではなく、「未病のうちに防ぐ、発

見する」予防医学の充実が不可欠で、がんや生活習慣病の予防や早期発見に加え、フレイルや認知症予防など求められる内容も多様化しています。

また、現在は新型コロナウイルス感染症の感染拡大というかつて経験したことのない状況下にあります。基礎疾患の有無が病勢に大きく影響するといわれており、健診の重要性は増す一方で、健診の受診控えが指摘されており、今後その影響が懸念されます。災害や新興感染症の発生時に、如何に健診受診率を維持するかは広報も含め課題であろうか思います。

神戸市医師会はかかる課題を貴協会と共有し、さらに連携を深め、補完し合いながら地域住民の健康増進に寄与したいと考えています。

貴協会が長年に蓄積された輝かしい実績と経験を基に、変化する時代の要請にも応えながらさらに進化・発展し、今後益々社会に貢献されますことを心より祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



## 創立50周年記念を祝して

神戸新聞社

代表取締役社長 高 梨 柳太郎

公益財団法人兵庫県予防医学協会が、創立50周年の節目を迎えられました。心よりお慶び申し上げます。計画されていた記念事業のいくつかは、新型コロナウイルスの感染拡大で実施できなかったとかがっておりますが、その中で、この記念誌の発行にご尽力されました皆さまに、敬意を表させていただきます。

協会におかれましては、学校保健の向上と予防医学の推進を目的に設立されました。神戸市の児童・生徒を対象とする寄生虫卵検査を皮切りに、全国に先駆けた骨粗鬆症検診や、丹波地域における5年連続の骨量測定の実施など、常に一步先を行く画期的な取り組みを続けてこられました。

今では、各種健診や人間ドックをはじめ、簡易専用水道検査、作業環境測定と、実に幅広い業務を展開されています。さらに、長引く新型コロナウイルス禍の影響で、健診・受診控えが危惧される中、機関紙「あすの健康」やホームページ、新聞紙面などを通じて、早期発見や早期治療の大切さを粘り強く発信し続けておられます。

疾病予防に関する知識の普及や啓発事業にも、積極的に取り組んでこられました。とりわけ、年1回開催の「予防医学フォーラム」と「いきいき

ライフセミナー」は、神戸新聞松方ホールを会場に、大勢の方にお越しいただく人気の講演会となっております。協会健診センターで年に数回開く「がんをよく知るための講座」も、毎回さまざまながんを取り上げ、リピーターが絶えません。

いずれも協会と弊社との主催ですが、新型コロナウイルスの影響で、ここ2年は開催を見合わせております。県民の健康保持増進に寄与できる事業と自負しておりますので、コロナの状況を見極めながらとなりますが、再開の時期を協会とともに検討してまいりたいと考えております。再開の際には、会場に足を運べない方々にも内容を知っていただけるよう、紙面やデジタルでの発信にも努めてまいります。

超高齢社会を迎え、健康寿命を伸ばすことへの関心はますます高まっております。協会におかれましては、長年にわたる健診などで得られたデータを基に、さらなる研究を進められ、私たちの健康増進になお一層、寄与していただけるものと期待しております。

最後になりましたが、協会のさらなる飛躍と皆さまのますますのご繁栄を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



# 創立50周年に寄せて

生活協同組合コープこうべ

組合長理事 岩山利久

公益財団法人兵庫県予防医学協会が、創立50周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。創立以来、多くの困難がある中、地域住民の健康保持や予防医学事業の進展に努めてこられました皆さまのご苦勞とご努力に対し、心より敬意を表します。

市民健診や住民検診がまだ広まっていなかった昭和46年、貴協会とコープこうべにとって最初の健診活動となる「第1回組合員(主婦)の健診」を開始しました。その後も大型バスの健診車「生協すこやか号」をはじめ、胸部レントゲン車、骨塩量測定車などの検診車を寄贈し、当生協は貴協会とともに地域組合員の健康福祉を増進する活動に取り組んでまいりました。共働き世帯が増加し、生活環境が大きく変化してきた今日では、当生協の宅配を活用した郵送方式による「大腸がん検診」や「ピロリ菌検査」を共同で行い、組合員のくらしと健康を守る活動にご尽力いただいています。また、1万人を超える当生協の役員・職員の定期健康診断も担っていただき、生活習慣改善へ

の啓発や疾病の早期発見、治療につながり、コロナ禍の中でも地域組合員のくらしを守る役割がしっかりと発揮できていることに対しても、あらためて感謝いたします。

当生協は2021年、創立100周年を迎えたことを機に、2030年にありたいまち、くらしを表現するビジョン「ターゲット2030」を策定しました。住み慣れた地域で人と人がつながり、健康で安心できるくらし、まちづくりを進めていけるよう地域の課題に寄り添い、「コープのあるまち 協同のあるくらし」の実現をめざして取り組みを進めております。

今日、社会が抱えている課題は、多様で複雑に入り組み、根の深いものばかりです。今後も、地域の皆さんの健康増進活動などに取り組まれる貴協会とは手を携え、安心して暮らしていける地域づくり、社会づくりを共に進めていくことができれば幸いです。

貴協会の今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。



## 創立50周年に寄せて

公益財団法人 予防医学事業中央会

理事長 櫻 林 郁之介

創立50周年を心からお慶び申し上げます。

公益財団法人兵庫県予防医学協会は、昭和46年4月、予防医学事業推進のために、神戸市と神戸市医師会の協議のもと「兵庫予防医学協会」として創立されました。同年6月に「兵庫県予防医学協会」、昭和48年6月に「財団法人兵庫県予防医学協会」、平成25年4月に「公益財団法人兵庫県予防医学協会」と時代の要請に沿って形態を整えながら、神戸市民と兵庫県民の健康増進と福祉の向上に大きな役割を果たしておられます。

貴協会は、創立以来、市民県民に寄り添い、受診者の声に耳を傾けて、必要とされる新たな施設の建設拡大や新たな事業の創出に取り組み、拡大発展を図られてきました。この業績や成果は目覚ましいものがあり、関西地区のみならず、全国においても出色の存在であります。

こうした事業を推進してこられた50年間には、多くの役職員の方々の並々ならぬご努力があつてのことと推察されますが、平成7年1月の阪神淡路大震災に際しましては、想像を絶する苦難と苦労があつたことと思います。当時、神戸市において予防医学事業技術研究集会（現全国予防医学技術研究会）が開催直前であり、中央会本支部の多く

の職員が現地に集まりつつある時であり大混乱となりました。貴協会では保健環境検査センターが全壊しましたが、1月中に出張健診、2月に外来健診を再開。保健環境検査センターの業務も集団健診センターと事務所棟に機能を移し2月中に再開されました。未曾有の大災害のなかで、役職員一致団結しての再興には頭の下がる思いでした。

そして令和2年1月から全国的なコロナ禍に見舞われ、全国各支部が苦戦するなか、貴協会においては素早く状況に対応し、経営を安定化することに成功されました。これもまた、時代を見る先見性と役職員の団結と努力の賜物であると感服した次第であります。

近年においても、受診者の要望や時代のニーズに応え、内視鏡設備の充実や新型コロナウイルス感染症のためのPCR検査を導入し、さらに最新のCTも導入して、健診検査の精度向上も図られています。

貴協会の50年間は、常に本会グループの先駆的な支部として存在してこられました。これからも本会グループの範として、予防医学運動を展開されることを心から期待いたしております。

## コラム 兵庫県予防医学協会の謎 1

# 兵庫県予防医学協会という名称について

「保健行政を支え、地域保健の充実に一端を担う」という趣旨で設立された兵庫県予防医学協会は、公共的な性格や組織の強化を図る必要があったため、当初から財団法人予防医学事業中央会および財団法人日本寄生虫予防会の支部としての認定を目指していました。

財団法人予防医学事業中央会の支部規定（当時）には、支部名にその所在する都道府県名を冠称することが規定されていたため、名称を兵庫県予防医学協会としたのです。

そして創立初年度9月に、兵庫県衛生部（現保健医療部）の推薦を得て両会の兵庫県支部として認定を受けることができました。

創立から50年、兵庫県予防医学協会という名称は、兵庫県下多くの皆さまに認知いただいています。



北側から見た当協会 JR摩耶駅と灘駅の間、車内から見るができる。